山弓連
平9.第1号

新年度役員 決まる
「どうぞ よろしく」

3月23日の総会と、その後の理事会で新年度の役員が決定し、平成九年度がスタートしました。新役員は次の通りです。

名誉会長　渡辺　良雄（再）東山梨
顧　問　丸山　宇太郎（再）東山梨
〃　中沢　利正（再）西八代
〃　上条　皎（新）北都留
会　長　安藤　秀保（新）南巨北
副会長　遠藤　侃一（再）南巨北
〃（兼選手強化部長）　坂本　致英（新）富士吉田
〃　菊池　敏彦（再）高体連
理事長　古屋　俊彦（再）甲府
理事（指導部長）天野　裕（新）教職員
〃（審査部長）佐野　辰巳（再）南巨南
〃（競技部長）有賀　武雄（新）中巨摩
〃（女子部長）秋山　照美（再）甲府
監事　内田　熙治郎（新）甲府
〃　藤巻　昭子（新）中巨摩

各専門部副部長
〃（指導部）深沢　武重（新）中巨摩
〃（審査部）大村　利正（再）南巨南
〃（競技部）藤本　芳明（新）中巨摩
〃（選手強化部）標　衣枝（新）東山梨
〃（女子部）中村　ミツエ（新）都留
〃（総務部）渡辺　孝三郎（再）甲府

以上の通り、再任10名、新任11名という顔ぶれになりました。どうぞよろしく。

なお、選手強化部長については、選考に手間どった為、臨時的措置として、当面、副会長の兼任ということで、新年度を発足させました。ご協力をお願いします。

また、支部長は、各支部からの登録名簿提出後に、改めて紹介します。

ご苦労さまでした
― 退任役員のみなさん ―

会長 上条皎さん
S62年から副会長2期4年、そしてH3年から会長3期6年。その間に、全国ねんりんぴっく、インターハイ等の大きなイベントを次々にやりとげました。

副会長 横谷三男さん
S62年から副会長を5期10年つとめました。会長のよき補佐役として、また、ねんりんぴっく担当として山弓連の発展に尽力しました。

理事 田中守正さん
H3年から指導部長を3期6年、各種講習会、研修会の企画、指導に力をふるい、山弓の弓の進歩向上に尽力し成果をあげました。

理事 深沢寛さん
S60年から強化部長2期4年、更にH1年から競技部長4期8年。その間に、かいじ国体の上位入賞、各射会運営の効率化などに功績がありました。

理事 古屋建男さん
H1年から選手強化部長を4期8年つとめ、その間に各国体で幾度もの入賞を果たし、競技力向上に多大の貢献をしました。

監事 佐藤眞佐美さん
H3年から監事を3期6年つとめました。山弓連財政の健全な執行の為に、多大な尽力、功績を果しました。

監事 有賀武雄さん
H1年から4期8年間、監事をつとめ、健全な山弓連財政をつくる為に尽力しました。今回、競技部長に就任する為、退任。

段位別選手権大会
皆中2名

4月27日（日）小瀬武道館弓道場で開催。従前は6種別に分けて実施したが、参加人数の関係で、ことしから「三段以下、四段、五段、称号」の4種別とすることにした。したがって「二段以下、女子」の部は廃止することになった。

参加人数は次の通り。（　）は申し込み人数。

三段以下の部　24人（36人）
四段の部　20人（31人）
五段の部　12人（16人）
称号者の部　32人（40人）

種別	順位	氏名（支部）	的中
三段以下	一位	清水　明彦（中巨）	7
	二位	矢野　宏幸（東八）	6
	三位	仲村　友広（吉田）	6
四段	一位	山下　達美（東山）	8
	二位	荒井　寿一（吉田）	7
	三位	坂崎　正樹（東山）	7
五段	一位	白須　吉人（吉田）	8
	二位	山下　真由美（東山）	6
	三位	中川　和也（医大）	6
称号	一位	佐野　辰巳（南巨）	7
	二位	坂本　武敬（東山）	6
	三位	小尾　幸夫（北巨）	6

好天気にも恵まれ、前半は四射皆中が続出して、ハイレベルの試合が期待されたが、後半やや息切れしたか、思った程に的中が伸びず、八射皆中は二人にとどまった。

また、入賞者の顔ぶれをみるといわゆる「常連」の数が減り、新人の入賞が増えたのも今大会の特色であった。これは、新人層の進歩が著しいとみるべきか、それとも常連層の頭うちと解すべきか？ いずれか？

上位入賞者は、上表の通り。

なお、この大会は、全日本選手権大会と関東選抜選手権大会の一次予選をも兼ねていたが、それぞれ4中以上を予選通過として、二次予選に進むことになった。

二次予選会は、6月1日、武道館で。

遠的大会

4月13日（日）、武道館弓道場で開催。参加者は、いつもながらの国体強化選手経験者がほとんどであった。

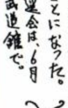
成績は次の通り。

○男子の部
一位　深沢　勇（中巨ナ）7
二位　荒井　紀彦（吉田）7
三位　深沢　武重（中巨ナ）7

○女子の部
一位　渡辺　直美（吉田）4
二位　大野　純子（甲府）4
三位　小松富士子（甲府）4

なお、この大会は全日本遠的選手権大会の県予選をも兼ねて行われたものだが、成績上位者の中に、本大会出場資格者（称号受有者）がなく（深沢選手は個人的都合により辞退）、ことしは県代表推薦を見合わせることになった。

勤労者大会予選



4月20日（日）武道館弓道場で開催。ことしは本大会が神奈川県（厚木市）で開催されるので、関東ブロックは各県4チームの出場わくが与えられていた。それで予選出場チームもふえるかと期待していたが、結局、横河電機A・B、東京電力、松下電器の、4チームのみの参加にとどまった。

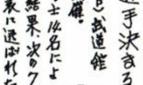
予選成績は次の通り。

チーム	一回戦	二回戦	計	代表
松下電器	11中	10中	21中	○
横河電機A	10中	8中	18中	○
東京電力	13中	8中	21中	○
横河電機B	5中	3中	8中	棄権

本来ならば全チーム予選通過となる筈であったが、横河Bチームが、チーム内事情により辞退棄権した為、残る3チームを県代表として推薦することとした。本大会での健斗を祈る。

本大会での予選通過ライン（予想）は、一次が11中、二次が13〜14中と考えられるので、今後更に練習を積み、久々に「県内チーム決勝トーナメント進出」を果たしてほしい。

ねんりんぴっく県予選
出場選手決まる



4月20日（日）、武道館弓道場で開催。ベテラン弓士14名による熱戦の結果、次の7名が県代表に選ばれた。

横谷三男（東八代）　平山学（東山梨）
浅野光男（北巨ナ）　伊藤昇（大月）
増野大新志（都留）　中村三並（都留）
藤巻昭子（中巨ナ）

全国大会は9月20〜22日に、山形県米沢市で開催される予定。県代表選手の健斗を祈る。

関東高校大会予選

4月26日（土）清泉館弓道場で開催。関東大会出場の座を争って熱戦を展開した。その結果、成績は次の通り。

○団体戦（24射）
・男子の部
一位　甲府商 A　16中
二位　白根高 A　16中
三位　北富士工 B　15中
四位　塩山高 A　15中
・女子の部
一位　巨摩高 A　17中
二位　巨摩高 B　13中
三位　農林高　13中
四位　甲府商　12中
五位　上野原高　11中

右の結果、関東大会県代表校は、
男子〜甲府商、白根高、北富士工、塩山高。
女子〜巨摩高、農林高、甲府商、上野原高となった。

○個人戦（8射）
・男子の部
一位　木島　剛（農林高）7中
二位　河野　友和（白根高）7中
三位　武井　智洋（山梨高）7中
・女子の部
一位　小林　悦子（巨摩高）7中
二位　細川　智恵（桂　高）6中
三位　木村　文華（農林高）6中

話のタネ

かいじ国体のあと、せっかく復活した遠的大会だが、毎年参加人数が少ないので、いつも淋しい思いをしている。しかしそれも、「県内遠的練習場が少ない」という条件を考えると止むを得ないことかも知れない。何とかしなければ……。

ところで〜中世の甲斐に、天下無双の遠的名人がいたことを知るや知らずや。その名は浅利与市義成。平家物語巻の十一「壇ノ浦合戦〜遠矢の段（中山義秀訳）により紹介する。

「（源氏方和田小太郎義盛と平家方の仁井紀四郎親清とが、三町を隔てての射合いの後）……ややあって沖の彼方から判官の船に白い矢竹の大矢を一本射こみ「その矢返し給えや」とさし招く者があった。判官がそれを抜かせてみると、白い矢竹に鵠ではいだ矢の十三束三伏もあるのに、矢尻の所から一握りばかりおいて「伊予国の住人仁井紀四郎親清」と漆で書きつけてあった。

判官は後藤兵衛実基を召して、「味方にこの矢を射返せる者が誰か居るか。」と問うと、「甲斐源氏の浅利与市どのこそ強弓の腕利きでござります。」というので「さらば与市を呼べ」と言って与市を呼びよせ、彼にむかって、「いかに与市、いま沖からこの矢を射てよこし、射返せとさしまねいている。ご辺は射返すことが出来るか。」と問えば、浅利与市は、「ともかくもその矢をお見せ下さい。」とその矢を受け取り、指先で調べていたが、「これは篦が弱く長さも少し短かい。同じ射るならわが矢をもって試みましょう。」と、塗り竹に黒ほろをはいだ矢、自分の大きな手で握って十五束三伏せあるのを塗籠籐の九尺ばかりの大弓につがえ、矢はずの隠れるばかりに引きしぼって、ひょうと放った。矢は、四町ばかりをひと飛びすると、大船の舳先に立っていた仁井紀四郎の胸板をぷつりと刺しつらぬき、船底へまっさかさまに射落とした。（後略）」とある。

十五束三伏せといえば、どうみても一六〇〜一七〇センチの矢。九尺の弓はわれわれのよりも二尺も長い。そしてその距離四町あまりは四百数十メートルになる勘定で、語りの為の軍記物という性格から、多少の誇張はあるにしても、とてつもない超遠的名人であったことはまちがいなく、このようなすごい名人が、われわれの祖先に居たことは山弓の誇りと言っていい。

というわけで、今回は話のタネをもって編集後記に代えます。　みなさん、また今年一年おおいにがんばって下さい。